

震災以降、千葉県内で「絆」をキーワードに出会いの場を創出する「街コン」の開催がブームに
今後は地域振興策の新ツールとしても期待

震災後、「絆」をキーワードに家族や友人、地域の人たちとのつながりを求める風潮が強くなっている。こうした動きを地域活性化につなげようと全国各地で20～30歳代の若者の参加者による「街コン」がブームとなっている。

「街コン」とは、自治体や商工団体、ボランティアなどが地元商店街等と連携し、若者の出会いの場を創出する婚活イベントのことである。街コンの参加費は、男性で6,000～8,000円、女性は男性の半額程度という設定が多く、参加資格は20～30歳代の未婚者が中心。誰でも気軽に参加でき、開催する地元飲食店の複数利用が可能。全国で初めての開催は、04年の宇都宮市での街コンと言われ、シャッター通りと化していた商店街の振興策として170人で開催された。11年7月に開催された第33回では2,000人を集客するビッグイベントまでに成長し、この街コンが縁で結婚に至ったケースも少なくない。

－国勢調査によると、25～29歳の未婚率は、男性が1990年：65.1%→2010年：71.1%、女性が1990年：40.4%→2010年：59.9%と上昇し、晩婚化の進行が一層顕著になっている。

千葉県内では、震災後の11年8月に、「成コン」と称して県内初の街コンが成田市観光協会と開運橋周辺商店街の協力で開催され、11月には341人が集まった。成田市に続いて、10月には浦安市（参加者100人）、11月に柏市（同200人）、12月に我孫子市（同180人）で開催され、12年1月以降も柏市や成田市、我孫子市などで開催が予定されている。

主催した人たちからは、「県外・市外からも多くの若者が集い、街を回遊することで賑わいが創出された」とか「街のPR効果やリピーター化の期待ができる」などの声が聞かれ、若年層の呼び込みに苦慮している地域の商店街にとっては、非常に魅力あるイベントとなっている。

こうした集客・消費効果が中心市街地活性化の新たなツールとして期待されつつあり、街コンの同じ市での連続開催につながっている。

今後、県内の他市町村でも街コンが開催される可能性が高く、連続開催する市町村も増えると思われるが、地元の人も楽しめ、参加者に飽きられないためにも、地元の祭事や季節のイベントに合わせたり、参加者に特産品や地元商店の割引利用券をプレゼントするなど、他県にない特徴あるイベントにブラッシュアップして、県内商店街の振興策として活かしていく必要がある。さらに開催する商店街は、単なる一日限りのイベントに終わらないよう、せっかくの参加者をリピーター化するために、行政や地元住民、ボランティア団体、大学等との連携を強め、魅力ある商店街の再生につなげていくことが重要である。（森）

【千葉県内でこれまで実施された街コン】

地域	名称	開催日	概要
成田市	成コン	第1回：2011年8月6日 第2回：2011年11月12日 第3回：2012年2月18日(予定)	成田市観光協会と開運橋周辺の商店街で開催した成コンは、参加者が第1回：100名→第2回：341名→第3回400～500名(予定)と拡大。普段は人通りの少ない商店街で街コンを開催し、多くの若者が集まり賑わった。開催後も、街コンの参加者がリピーターとして飲食店を訪れている。
浦安市	うらやすランチデート☆大作戦	第1回：2011年10月2日 第2回：2011年12月18日	結婚相談所の運営等を行っている民間企業が、東日本大震災により被災した浦安市を盛上げたいとの思いから、ボランティアで企画・提案している。参加者に、事前に好みのタイプをアンケートで尋ねて席割りを決めたり、イベントを行うなどして、初対面の人が会話をしやすいように工夫している。
柏市	コインミカシワ	第1回：2011年11月19日 第2回：2012年2月18日(予定)	地域振興を目的とした任意団体「コインミカシワ運営事務局」が、市役所や商工会と協力して開催。飲食店の客入りの少ない時間帯(16時)に街コンを開催し、店の売上に寄与。今後は、「スポーツのまち・柏」にちなんだイベントの開催も計画している。
我孫子市	あびコン	第1回：2011年12月3日 第2回：開催予定(時期は未定)	駅前商店街が市や商工会の後援のもと開催。開催当日は、テレビ局が取材に訪れるなど注目度が高く、番組放映後には事務局宛に飲食店の詳細状況に関する問い合わせもあるなど、PRの場となった。

(出所)各種ホームページおよびヒアリングにより、ちばぎん総合研究所が作成。